

[↓ ログイン前の続きから読む](#)

(今こそ！聴きたい) みんなのうた 年代問わず、心豊かに

会員記事

2021年3月13日 3時30分

| 読者のRanking | | |
|------------|--------------------|------|
| 1 | 大きな古時計(初回放送1962年) | 763票 |
| 2 | ちいさい秋みつけた(62年) | 756 |
| 3 | 手のひらを太陽に(62年) | 639 |
| 4 | 北風小僧の寒太郎(74年) | 606 |
| 5 | 山口さんちのツトム君(76年) | 528 |
| 6 | おお牧場はみどり(61年) | 478 |
| 7 | ドレミの歌(62年) | 460 |
| 7 | 虹と雪のパラード(71年) | 460 |
| 9 | バラが咲いた(66年) | 447 |
| 10 | クラリネットこわしちゃった(63年) | 440 |

読者のRanking



NHK「みんなのうた」が今年で放送開始から60年になります。これまでに約1500曲を取りあげた長寿音楽番組です。今、聴いてみたい曲を尋ねたところ、1960、70年代に放送された曲がずらりと上位にランクイン。時代を超えて歌われている曲の根強い人気を再認識しました。

----- ↓ここから続き -----

上位3曲はいずれも番組開始翌年の1962年に放送された。1位の「大きな古時計」はもとは米国の曲で、2002年に平井堅さんがカバーして大ヒットしたことも印象に残る。「もともと好きだったが、平井堅さんが歌って、改めていい曲だなと感じた。つい口ずさんでしまう」(愛媛、47歳男性)

岐阜の男性(86)は大正時代から家にあつたという柱時計の思い出を寄せた。「明治生まれの祖母がほぼ毎日決まった時刻にゼンマイのネジを巻いていました。あまり大きくはありませんでしたが、祖母と共に毎日動いている時計でした。この歌を聴くたび我が家の柱時計と祖母の姿が脳裏によみがえります」

2位の「ちいさい秋みつけた」はサトウハチローさん作詞、中田喜直さん作曲の童謡。番組ではボニージャックスが歌った。物悲しい旋律が印象に残る。サトウさんは自宅の庭を題材に詞を書いた。3番の歌詞に出てくる庭のハゼの木は移植され、東京都文京区の礪川(れきせん)公園に植えられている。「子どもの頃は物悲しいメロディーやコーラスが秋にぴったりと思っていたが、大人になったら、大好きな秋を少しでも早く感じたい感情と重なり、もっと好きになった。季節を先回りしたい日本人の心をよく表している」(東京、48歳女性)

*

励まされる曲、という声が多かったのが3位の「手のひらを太陽に」だ。

東京の女性(56)は「小学校低学年の頃、テレビを見ながら歌っていた記憶がある。元気が出る曲、命の尊さを感じられる曲で、コロナ禍の今、聴きたいと思う」と言う。「歌詞から生命の大切さを学び、この曲で、初めてオケラを知りました。不朽の名曲」(香川、52歳男性)。作詞のやなせたかしさんは、夜に懐中電灯で手のひらを照らしてみたところ「血の色がすごく赤くて、びっくりして書いた」とインタビューに答えている。

「ヒューン」の歌声が耳に残る4位の「北風小僧の寒太郎」は、74年に堺正章さんが歌った。81年には北島三郎さんのバージョンが登場。三度笠に道中かっぱの寒太郎が空を飛ぶアニメーションも記憶に残る。

香川の女性(72)は冬が来ると、アニメを思い出すという。「けなげでかわいらしい寒太郎が北風の吹く中、くるりくるりと舞い飛びながら旅をする姿と歌詞とがマッチして、とても心に残っています」。作詞の井出隆夫さんは、ヒット曲「時間よ止まれ」「ふれあい」などで知られる作詞家・山川啓介の本名で、この名で寒太郎を始め、子ども向けの歌も多く手がけた。

子どもにとどまらず大ヒットとなった「山口さんちのツトム君」が5位に。作詞作曲したシンガー・ソングライターのみなみらんぼうさん(76)は、番組から依頼される1、2カ月前に原曲ができていたと話す。

ある日、散歩の途中で曲想が浮かび、急いで部屋に戻った。6畳間に置いたこたつの上に座り込み、「ギターを抱えて、しゃべるように歌ったんです。すらすらと1番と2番の歌詞が生まれてきました」。遊んでくれないツトム君を「どうしたのかな」と心配する幼なじみの女の子。話し言葉の調子を自然に生かして曲ができた。NHKの担当者から「そのままでは寂しい」と注文があり、母が戻ってツトム君が元気を取り戻す3番を加え、76年4月に歌は放送された。

「ツトム」と名前をカタカナにしたのは、特定の誰かではなく記号として表したかったから。「何ならヨシオ、タケシ、でもよかったぐらい」。多くの人からモデルを尋ねられるたび「いません」と答えていた。

だが、発表から15年後、「みんなのうた」30周年を記念したエッセーを書いている時に、ふとひらめいた。これは自分自身だと。みなみさんは中学1年の時に当時37歳だった母を亡くした。脳出血のため実家で倒れて戻らなかった。「あとで」と誘いに応えないのは、まさに当時の自分の気持ち。「曲を作る際に母があの世界から力を貸してくれたのかもしれない」

みなみさんはこの曲を子どもの歌と言われることには抵抗があると話す。「多くの人に受け入れられたのは、大人の中の子ども心にくすぐったということ。子どもと大人、歌に線を引くことはないと思うのです」

■変わらぬ番組構成

番組を総括するNHKエンタープライズの関山幹人エグゼクティブ・プロデューサー(58)は、ランキングを見て「歴史があって愛されている定番の曲が並びましたね」と話す。最近の曲では、「パプリカ」(2018年)が20位に入った。

番組は「子どもに良質で健全な歌を」とのコンセプトで61年4月に始まった。6位の「おお牧場はみどり」は第1回に放送された曲だ。「高度成長期、大人向けの音楽が量産される中で、子どもの世界を豊かにする音楽を送り出したい思いがあったと聞いています」。初期は外国の曲も多く、スタッフが各国の大使館を訪ね、民謡などを集めたこともあったという。

*

東京の女性(56)は番組について「最近はずいぶん大人が楽しめる短い数分であるようで、より身近に思います」。関山さんは「子どもだけでなくどの年代の方にも聴いてもらえるよう、時代の空気を取り入れながら、番組を届けています」と話す。

5分間で2曲という構成と、「みんなのうた」という番組のロゴは開始以来変わらない。音楽と映像をセットで届けるアイデアには、クラシック音楽をアニメーションで表現したディズニー映画「ファンタジア」がイメージの一つにあったという。

「映像は曲の世界を単純に表現するのではなく、互いが触発して新たな意味づけが生まれるよう考えます」と関山さん。今はYouTubeなど誰もが映像表現ができる時代だけに「インパクトを意識します」と言う。

番組への意見でも映像の魅力を指摘する声がある。「映像も色々なバリエーションで飽きさせない」(神奈川、56歳女性)。新潟の女性(39)は「もしかすると人生で最初に触れ合うミュージックビデオかもしれない」。

番組はNHKのテレビとラジオで放送されており、詳しい放送予定はサイト(<https://www.nhk.or.jp/minna/>)に掲載されている。(大村美香)

<調査の方法> 1月下旬、1543人が複数回答。11位以下は(11)ドナドナ(12)南の島のハメハメハ大王(13)アルプス一万尺(14)森の熊さん(15)かあさんのうた(16)グリーングリーン(17)さとうきび畑(18)ビューティフル・ネームと続く。

◆みなさんへのアンケートをもとにした企画です。アンケートは<http://t.asahi.com/berank>で実施中。テーマは「今こそ！見たい 大映ドラマ」。